

秋の風が静かに吹き抜ける午後、公園のベンチに座って本を読んでいると、ふと金木犀の香りが鼻をかすめた。季節の移ろいを知らせるように、木々はゆっくりと色を変え、足元には赤や黄色の葉が舞い落ちる。遠くで子どもたちの笑い声が響き、世界が少しだけ穏やかに感じられた。

窓の外を見ると、雨がしとしとと降り続いている。灰色の空が広がり、街は静まり返っているようだ。しかし、その静けさの中に、どこか温かみを感じるのはなぜだろうか。雨粒が窓ガラスを伝い落ちる様子を見つめていると、心が落ち着いていくのを感じた。